学校便り

第１２号

since2006

久田学園佐世保女子 高等学校

2007.6.28（2007年度　第３号）

球技大会開催！！～各競技で熱戦を展開～

６月９日（土）、球技大会を開催しました。今回は、グランドにて“フリンゴ”、講堂にて“バドミントン”を実施。それぞれ真剣に、楽しく競技に臨むことができたようです。

さて、この“フリンゴ”。ほとんどの人がその存在を知らないのではないでしょうか。最近、ドイツから日本に紹介された新しいスポーツだからです。文章で説明するのは非常に難しいのですが、ものすごく簡単にルールを説明すると①バドミントンで使用するコートとネットを用い②二手に分かれ（シングルまたはダブルス）③伸縮性のある布を、食事のナプキンのように胸の前に掛け④ピンポン球よりやや大きめ・重さ約３０グラムのボールを⑤胸にかけた布ではじき返し⑥相手のコートに落とした方が得点となる・・・といったところです。ただし、これぐらいできるようになるまでには相当の練習が必要らしく、全員初心者の私たちには、布にボールを当てることすら一苦労といった状態です。こんな感じでは、次の世紀まで息詰まるラリーなど期待できないと判断し、やむなく①チーム（５～７人）で輪になり、チームの中でボールをはじいた回数を競う②ボールををはじく際**「フリンゴ！」と叫ばなければ**ならない・・・という特別ルールを用いることになりました。

２番目のルールなど本場ドイツの人が知ったら怒るかもしれませんが、“フリンゴ”という競技に親しみ、みんなで楽しみたいという気持ちに免じて、お許し願いたいと思います。

競技の結果は、優勝候補筆頭の３年生チームを押さえ、１年生チームが見事優勝。賞品に目がくらんだのかわかりませんが、元気に張り切っていた３年生が本番で力を出し切れず、１年生は無欲の勝利といったところでしょうか。その後、バドミントンをダブルスで実施。優勝ペア・ＭＶＰ・個人賞受賞者には素敵な賞品が贈られました・・・・・。“フリンゴ”の話題がほとんどになってしまいましたが、それほど“フリンゴ”には人を惹きつける何かがあるのかもしれません。スポーツに興味がない人でも、一度あの布の紐を頭に通すと、知らず知らずのうちに「フリンゴ！」と叫んでボールを追いかけていることでしょう。

最後に１つ。今回の球技大会は生徒会の３年生が中心となって、準備・進行を行ないました。ほぼ滞りなく進行できたと思います。**やればできる**のです。お疲れ様でした。また次の機会に期待しています!!

生徒総会

球技大会と同日、午前中は生徒総会を開催。生徒より提案された*“学園生活をよりよくしよう！計画”*をもとに、具体的、積極的に意見が交わされました。今回の話し合いを踏まえ、一人ひとりが日々、責任と自覚を持って行動できれば、充実した高校時代を過ごすことができるでしょう。

大久保小学校の皆さんと

《イモ苗植え》

６月は大久保小学校の皆さんと、様々な交流を行ないました。こちらが小学校へ招かれたり、あるいは本校へお迎えしたりと、学校や年齢の垣根を越えた、人と人、心と心の交流ができました。

まず毎年恒例の合同“イモ苗植え”です。小学校まで２年生の皆さんをお迎えに行き、手をつないで仲良く畑までご案内。２、３人の組に分かれ、早速、苗植え開始。くっつき過ぎず、離れ過ぎず、抜群の感覚で絶妙な間隔を保ちながら植えていきます。今回植えたのは「ベニアズマ」と「ベニオトメ」の２種類。収穫後、形・色・味の違いを比べてみるのも、また楽しみの一つです。小学生・高校生ペアのチームワークが良かったおかげで、苗植えも程なくして終了。続いて、耕運機を使った体験耕作を行ないました。大きな音を立てて、ドンドン土を掘り起こしていく機械に、みんな大興奮。一瞬『佐世保バーガーのお店』かと見間違ってしまうほど、順番待ちの列が続きます。また、本校の生徒たちも「一体、どちらが小学生なんだ」と言ってしまいたいぐらい、はしゃぐ姿も見られました。その後、行きと同じく、皆さんを小学校まで一緒に送って、楽しい時間は終了しました。

大久保小学校２年生の皆さん！楽しく過ごすことができましたか？きつくはなかったですか？楽しかった人には、秋の「イモ掘り」の時、今回とは比べ物にならないほどの**楽しいことが待っている**はずです。きつかった人には、そうでなかった人に比べ、収穫の**喜びがより大きくなる**ことでしょう。また秋にお会いしましょう。今からその日を指折り数えながら、楽しみに待っています。

ホスト役である我が校の生徒の皆さん！よく考えてみると、皆さんは、お招きした小学生の２倍以上生きています。**人生の先輩として、良きお姉さんとして**上手にリードできていたでしょうか？明るく元気にお迎えすることができたでしょうか？また、この日を迎えるにあたり、大久保小学校の先生方が草をはらいに来てくださったり、みんなで石を拾い、固くなった畑の土を起こし、耕したことを思い出しましょう。何事も一朝一夕にうまくいくことはありません。成功して順調にいっているような人や、一見華やかに見える世界でも、影では綿密な準備と毎日の努力の積み重ねがあるということです。

何はともあれ、今後、天候に恵まれ、イノシシに荒らされることもなく、病気にもかからず、秋にはたくさんの実りがあることを祈りましょう!!

秋の「イモ掘り」で、またお会いしましょう!!

様々な交流を行ないました

《こころのコンサート》

６月２０日（水）、大久保小学校で開かれた《こころのコンサート》にご招待を受けました。ピアノ・トランペットの演奏家、ソプラノ歌手、いずれもプロの３人が素晴らしい音楽と歌声を披露。童謡から歌劇までバラエティーに富んだ内容で、しかも親しみやすい曲目ばかりで、演者の方々の心遣いが感じ取れました。途中、**クマの着グルミまで登場**し、会場は大いに盛り上がりました。

感激と驚き、そして何よりも楽しいコンサートにご招待いただき、ありがとうございました。大久保小学校の皆様へ改めてお礼申し上げます。これからもお互いに心の通った、良い交流を続けていきたいと改めて感じました。

※それにしても、小学校の校長先生のお仕事に"クマのぬいぐるみを着る"という職務があることは知りませんでした。
汗だくの校長先生と子どもたちの笑顔で、何か幸せな気持ちになりました。

《心がふれあう交流会》

「いのちを見つめる強調月間」ということで、佐世保市内の小中学校では、６月に様々な取り組みが行なわれています。その一環として、大久保小学校で《心がふれあう交流会》が実施されました。地域の多種多様な達人の方々を講師に、１２種類の体験講座が用意されてあります。その講座の１つとして、本校に小学４年～６年生・約２０名を招き「**着物教室（装道礼法）**」を行ない、また逆に、小学校で行なわれる講座のうちの３つ（**折り紙・麺づくり・パソコン**）を本校の生徒が受講しました。教室の後ろにはランドセルが並び、少し低い机と小さい椅子に腰を下ろすと、どこか懐かしい感じが心の中に広がります。パソコンではホームページを、折り紙ではサッカーボールを、それぞれ講師の先生の指示に従って作業を進めていく手順です。小学生の皆さんは日頃から親しんでいて慣れているのか、それとも全員が器用なのか、テキパキと先へ進んでいきます。一方の我が高校生たちは・・・？結局、惜しくも時間切れとなりましたが、小学生に囲まれて授業を受けるという**貴重な経験**をすることができました。一方の麺づくりチームはと言いますと、さすが**"フードデザイン"の授業で鍛えられている**だけあって、上手に小学生たちのサポート役となり、美味しそうな『ニョッキのミートソース』『すいとん』を完成させました。

着物教室では、訪れた皆さんに、礼法の心やお辞儀の仕方などを、身振り手振りをまじえながら丁寧に説明。その後、浴衣の着付けをお手伝いし、最後にみんなで記念撮影を行ないました。和室に咲いた清楚で可憐な花々。この日ばかりは初夏の主役の座を奪われた中庭や校庭のアジサイも、嫉妬の花を咲かせていたのかもしれません。

フードデザイン、さらに充実

本校が掲げる“食育ＥＣＯモデル実践校”の代表的な取り組みである「フードデザイン（ＦＤ）」の授業。週に３回、生徒が全校生徒・全職員分の昼食を調理するという全国的にも珍しい取り組みです。今年は各学年ごとにテーマを決め、それに沿って生徒たちは日々奮闘しています。１年生は“基本の料理”、２年生は“郷土や世界の料理”、３年生は“季節や旬のもの、行事料理”です。また昨年からは「フードクリエーター」として、主婦の方に講師をお願いしています。いわゆる“家庭の味”“料理のコツ”を学ぶことが狙いです。資格や免許取得を目標にし、調理技術を学ぶ従来の調理実習とは一線を画し『将来、家庭の台所に立って自分や家族のために食事をつくる』というより実践的・長期的な学びを重視しています。もちろん３年間の積み重ねにより、調理の技術・知識も充分身につきます。

今年から新たに３人の「フードクリエーター」の先生が加わり、**ますますパワーアップ！**この場を借りて、ご紹介したいと思います。

まず山口君代先生（６３歳）。現在も町内などで料理教室を開かれるなど経験もさすがに豊富です。***“ＯＬや主婦の方より、若い生徒さんの方が素直に聞いてくれる”“流し台のふきあげなど、細かい所もしっかりしているので感心した”***とのお褒めの言葉も頂戴しました。「ＦＤ」で初めてつくる料理の時には、事前に自宅で作ってみて、ご主人が味見をされるそうです。「ＦＤ」の美味しさのカギ。実はこの旦那様が握っているのかも・・・。

次に藤戸厚子先生（５４歳）。***“笑顔は夕ダなので常に笑顔を”“笑顔には人の内面の美があらわれる”***などなど様々な『お言葉』をお持ちの藤戸先生。どの言葉もプラス思考が根底に流れています。お話がお好きで、どこか人を惹きつける魅力を持ってらっしゃるようです。今回も「５分ほどお話を」とお願いしたところ、気づけば１時間以上経過していました。同じく先生の言葉で***“食材に話しかけるぐらい愛情を持って料理し、笑顔で食事を”***。この気持ちを生徒に伝えてもらいたいと思います。

最後に岸川奈津枝先生（４３歳）。先生を一言で表すとすると「何にでも挑戦！」といったところでしょうか。今回、お話をお伺いしただけでも「ラジオ体操・茶摘み・ヨガ・ジム・部屋の模様換え・クラフト教室・アメリカ人の友人・・・ｅｔｃ」たくさんのキーワードが飛び出してきます。***“良い生徒さんばっかりで、自分の方こそ勉強をさせてもらっている”***という岸川先生。「先生がいると場がなごむ」と家庭科担当教諭の言葉通り、優しく丁寧に教えてくださっている印象を受けました。

先生３人を紹介するにあたり、年齢を記載して良いかどうかお聞きしたところ、３人全員とも“そんなもの気にしてどうするんですか？”というニュアンスのことをおっしゃいました。何事にも前向きで明るい方々です。このような先生に指導を受ける**生徒の皆さんは、幸せ者**です。性格も技術もドンドン見習って欲しいものです。

今回、それぞれに興味深く面白いお話をたくさん伺うことができました。どのお話も深い人生経験に裏打ちされたものばかりで、全てをご紹介したいのですが、ほんの一部しか載せることができなくて申し訳なく思っています。また、お話の意図を正確にお伝えしきれていない部分もあるかもしれません。先生方の広いお気持ちで、どうぞ笑ってお許しください。